

「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」の制定過程で収集された事例（平成16年9月～12月）【教育のみ抜粋】

日常生活の広範な分野にわたる事例（福祉 呼称 労働 教育 不動産の取得・利用 建築物 交通アクセス サービス提供 医療 知る権利・情報 参政権 司法手続 所得保障 その他）約800件が集まり、教育分野に関する事例は最多で、183件だった。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/shoufuku/iken/h17/sabetsu/index.html>

分野	事例	改善提案
教育	<p>大学入学後、学生・教職員の差別（設備の不備、教室配置への無配慮、学生の暴力、職員の無理解等）があり、県及び市の人権擁護委員に相談するも効果なし。千葉地方法務局の調査でも事件なしとされた。</p>	<p>人権擁護委員、法務局の業務懈怠に対してこれを是正できる制度がない。公平な調査・審査ができる権限をもつ機関が必要。</p>
教育	<p>「千葉県立千葉ろう学校高等部理容科及び理容科専攻科の教育環境と聴覚障害者の進路決定に対する制限に依る差別事例」</p> <p>上記科において、指導教員が理容科の指導者たる学校教育法上の要件を満たしているものが1～0名しかおらず、教員の総数・専任教員とも同法の配置基準を満たしていない。</p> <p>中学部からの理容科入学希望者に対して、学力不足と教員が判断し理容科入学を拒否した。</p>	<p>理容科の指導者について、同法の要件を満たすものを採用し、法定人数を配置し、法定の教育課程に戻すことが必要。</p> <p>障害があっても職業選択の自由があり、障害者教育に理容科を設置しているのであるから、希望する生徒は可能性に挑戦させる体制が必要。</p>
教育	<p>未就学障害児に対する教育委員会の対応。脳性麻痺児が4歳のとき、主治医・訓練施設の専門家から、集団保育への参加が望ましいとの助言があった。保護者も将来は社会的に自立可能との観点から、当時居住していた市の教育委員会に幼稚園への入園を打診した。</p> <p>しかし、「肢体不自由児の入園は認められない。5歳より障害児学級として指定の幼稚園（地域外）のみ可能」との回答。公教育にもかかわらず入園を拒否され、保育所へ入所させるための「保育に欠ける状況（母親の就労）」を発生させた。</p>	<p>教育現場の受け入れ意識の低さ。各自治体の障害児受け入れ状況を把握し序列化すると同時に、その努力を怠る自治体に対しては何らかのペナルティを課す。</p> <p>教育の質の悪いことを理由として転居する場合、転居元の自治体が転居先の自治体に負担金を払うシステムを作る。</p>
教育	<p>中学校の放課後のクラブ活動で、障害を理由に参加時間を短縮させられたり、他のクラブに移るにも、入部を断られ辛い思いをした。</p>	<p>クラブの顧問教師はボランティア同然なので、校長も強く指導できない実態がある。地域に開かれた学校を推進するためにも、地域ボランティアをもっと活用すべき。</p>
教育	<p>「〇〇学級って、馬鹿なんだよね」と、同じ学校の子に言われる。</p>	
教育	<p>「この特学さんは、勝てるのは体力しかない。だから…」と特殊学級の先生が言った。</p>	

教育	子の障害が重いのであらかじめいた幼稚園の入園について、町役場から幼稚園の入園申込書が送られてきたので申し込んだが、断られた。断るくらいならはじめから申込書を配らないでほしい。	
教育	発達の遅れのない元気な子が家のすぐ近くの学校に通い、身体の不自由な病気がちの子が家から遠く離れた学校にスクールバスで通う。単純に考えるとおかしいことだと思う。	どんな子も、基本的には地域の学校に通えるよう、教育現場に教師だけでなく、必要な専門家を配置又は派遣する。
教育	特別支援教育について、仲良し学級等の現状を調査して今後の対応を願いたい。	
教育	障害のある子をクラスの子のいじめからかばっていた娘が、担任教師から「普通の子と遊びなさい」と言われた。抗議すると、クラス全員の前で、その子を指して「この子は病気で頭に血が回らないんだからみんなでカバーしなさい」と言ったそうです。傷ついたその子は、その翌年度から特殊学級に行きました。これは差別だと思う。	
教育	精神障害者であることを理由に、社会福祉士養成校から「受け入れが難しい」と言われた。入学時に差別はしないとされたため、「障害のため夜勤は困難であり、夜勤のないところで実習したい」と申し入れたが、「実習先を選ぶことはできない」とのことだった。結局、私はその学校に入学しなかった。	「社会福祉士法及び介護福祉士法」に精神障害者に資格を与えないという欠格条項はない。精神障害者でも社会福祉士の資格を生かせるところはたくさんあるのに、このような差別はおかしい。実習先が自分で選べるようになればよい。
教育	就学時健康診断にて。親が、兄弟のいる学校に通わせたいと強く希望しているのに、教育委員会から養護学校に行けと言われた。早朝の電話など嫌がらせのような仕打ちを受けた。障害のない子ならば絶対にこんな経験はしない。分離・隔離・排除されたくない。	子どもの権利条約で勧告されているインクルーシブ教育に変えるべき。分離教育は条約違反です。
教育	子は自閉症と発達の遅れがあり、よくオウム返しや人の真似をする。小学校は特殊学級だったが、交流学級の生徒に卑猥な言葉を教えられ、今でも時々言うことがあり困っている。担任教諭には生徒を注意するようお願いした。	担任、交流クラスの担任と保護者が話し合い、児童にも理解するよう指導してもらいながら改善できれば良いと思う。
教育	特殊学級だから言っても分からないだろうということで、先生が生徒に暴言やいやみを言う。	授業の抜き打ち参観や録音等をして確かめてほしい。
教育	養護学校での保護者参観日に、土運びをしている生徒に教員が「早く行け」と腰のあたりを足で蹴るようにして促したり、「バカ、のろま」という言葉をあびせた。怒りを感じても、重い知的障害の子をお世話になっているので、何も言えない。	特殊教育に携わる教職員の人権教育がとりわけ必要。
教育	小学校普通学級1年生の知的障害のある女子が、じっと座っていなかったと言うことで担任に椅子に縛られているところを、付き添いを求められていた母親が休み時間に教室の様子を見に来て発見した。 校長と担任は、保護者に「IQ75以下の子どもは普通学級にはいられない」と言い、「特殊学級設置の要望を出すこと」「普通学級にいたのであれば母親が付き添うこと」を求めていた。担任は休み時間にその子を放置して職員室に行っており災害時の安全も考慮して	知的障害児が普通学級の教育の対象ではないという教職員の意識を変えるために、障害のある子をクラスの一員としてありのままに受け入れることをテーマとして研修を行う。

	いなかった。	
教育	<p>小学校特殊学級 1 年生の知的障害のある女子。担任から「この子の障害が重いために去年までこのクラスでできていたことができなくなった。」と言われた。担任の意向を受けた他の保護者からも「養護学校に移るべきだ。このクラスにいるなら親の責任で介助員をつけてほしい。」と迫られ、親は孤立した。</p> <p>介助員が必要であれば学校側が要請するのが通常だが、児童の障害の状況を、本人と保護者の責任に帰してしまっている。障害の種類と程度による就学先区別は児童のランク分けによる排除となっているが、教職員自身が「排除」に気づいていない。</p>	就学先を決めるのは保護者であり、その意思を大切にしたい受け入れ体制を整えることを、特殊学級を含めて校長・教職員に徹底させる。
教育	<p>全校音楽祭に特殊学級も参加したときのこと。全員でリコーダーを吹くことになっていたが、特殊学級の児童はうまく吹けない。音楽祭当日、特殊学級の児童のほとんどは音が出ないようにリコーダーの穴にテープを貼られた。悔しかった。</p>	特殊学級の生徒に合わせて、全校で楽しむ行事を企画することは十分可能。こうした事例を集めて教育委員会が現場を指導する。
教育	<p>特殊学級は教科書が供与されない。それが納得できず、実際に使うことは一度もないことは分かっているが、専門の書店で買った。</p>	特殊学級でも教科書を使うべき。
教育	<p>小学校普通学級 2 年生の知的障害のある男子。担任が家庭訪問の際に各家庭で「あのがいるために勉強が進まない」などと、その子がいるために他の児童が不利益を被るという趣旨の発言をした。また、「3 歳児の知能しかない」と言いながら叩くなど体罰を行った。1 年の時は優しくしたクラスの児童も、その子に意地悪したりするようになった。保護者会では「養護学校を見学に行くべき」などと、その子の保護者を数人が責め立て、自宅にまで非難の電話がかかってきた。</p> <p>その子は一時は登校できなくなり、食事もとれず自分で自分の顔を叩くなど、1 年時の落ち着いた生活を壊され、保護者も悩み持病が悪化した。</p>	<p>この例では、新任の校長がその子に優しく接し、担任を替えたことで少しずつ登校できるようになった。</p> <p>校長の姿勢が大きな影響力を持つ。</p>
教育	<p>小学校普通学級 1 年生の知的障害のある息子が大便のおもらしをした。PTA の仕事で校内にいた私は、後始末のため呼び出された。大体の始末は終わっていたが、学年主任の教師が「お母さんにやってもらいましょう」と言い、4 人の教師が立って見ている中で廊下を拭くことになった。「障害のある子が迷惑をかけたのだから、親が始末して当然」というのが学年主任の考えだったのだろう。他の 3 人の教師は気の毒そうな様子だった。</p>	<p>障害のある子が迷惑をかけたときの「見せしめ」的な仕打ちの典型。学校現場が開かれたものになることで徐々に改善されるのではないか。</p>
教育	<p>中学校特殊学級を卒業した若者と会って話をした。私の子が彼よりも障害が重いにもかかわらず、普通学級で学んだことを話したところ、「うらやましい。特殊学級では字をよく教えてもらえなかった。就職して自分の名前が書けなくて、ばかにされた。つらかった。」と言っていた。彼の話には考えさせられた。</p>	<p>本人の意思に基づいて就学先を決められるように制度を変更する。また、特殊学級から普通学級へも容易に移れるようにし、特殊学級の教育内容も検討する。</p>

	<p>私の子は自分の名前を書けるようになった。文字の読み書きに接する機会が、普通学級では至る所である。文字も含めて普通教育を受けられず普通の生活体験がないことが、社会生活上の不利益になることが多い。本人の責任によらない不利益は差別である。</p>	
教育	<p>小学校就学予定の児童について。学区の普通学級への就学意思を文書で明確に表明していたにもかかわらず、市教委が親子の了解もなく就学相談の開始と個人情報の収集を行い、就学指導委員会に諮り「養護学校適」との審議結果を通知して就学相談を迫ったこと。当事者の抗議に対して、市はこれらの手続は適性であると主張したこと。県教委に改善を要望したところ対応があり、学校との話し合いに望むことができたが、その後も何度も養護学校を勧められ、「この学校では見られない」などの差別的な発言を受け、精神的に追いつめられた。</p>	<p>障害があっても、本人や親が希望すれば、普通学級に入れることを、千葉県下全ての市町村で認めること。</p>
教育	<p>子どもの障害を理由に、親の付き添いを入学の条件とされた。その弟の病気や親の体調の関係で、本人は学校に行きたくても行けないことが多く、欠席日数は一学期で15日もあった。</p>	<p>「親の付き添いを普通学級就学の条件にすることはおかしい」ことを千葉県下全ての市町村で認めること。教育委員会と学校は、障害があっても、地域の子どもとして、子どもの教育環境を整える義務がある。</p>
教育	<p>身体障害と知的障害の両方がある児童。歩行ができないうちは入れてくれる幼稚園・保育園はない。小学校は普通学級を選んだが、危ないからヘッドギアをつけてくれと言われた。しかし主治医にはヘッドギアが必要だと言われたことはない。毎年変わる担任教諭に「将来のため」と特殊学級や養護学校を勧められるため、この学校でどうしたらいいか相談することができない。兄弟や近所の子と一緒に普通に地域の学校に通わせたいと願っている。勉強は解らないが、子どもなりに学校を楽しんでいる。</p> <p>障害という基準があることが障害者を支援するためにあるならば必要であり大歓迎だが、その基準のあることで、「あなたはみんなと違うから、みんなと同じには生きられない」と誰かが作った障害者としての生き方を当てはめられる。それこそが差別だと思う。</p>	<p>中学校も高等学校も、できれば仕事も自分で、家族で選んでいきたい。選択した後を支援して下さいよう願います。</p>
教育	<p>健常児と分離されることを望まないにもかかわらず、必要とする特別なニーズを満たされず、普通教育を受けることが困難な状況が差別である。普通学校においても、合理的かつ必要な配慮は受けられるべきである。車いすでは介助なしでは移動についていけなかつたりしている。さらに、安全性も確保されず、骨折等の事故を繰り返した。</p>	<p>普通学校、特殊教育などの選択権は本人(あるいはその代弁者としての保護者)にあることを明文化する。学校、自治体は必要な配慮を行うためのガイドラインを作成し、権利救済機関の設置を行う。必要な配慮のための人材育成とそのコーディネートを行う。</p>
教育	<p>車いすを理由に、塾の申し込みを断られる。</p>	

教育	車いすの中学校1年生の子を持つ親です。学校行事は全部付き添いを求められています。この前の校外学習では、担任ではない先生がほとんど介助して下さったのですが、それでも親に来てほしいとのことで、理解できません。	私達は、子どもの心配、お金の心配、会社の心配、家族の心配など、いろいろな心配をしなければなりません。付き添いが必要なら、お金だけでも補助してほしい。学校は簡単に「付き添い」と言わないでほしい。
教育	車いすという外見だけで、何でも「できない」と思われたり言われたりすること。教科書を読んでいたら、「あいつ、わかりもしないのに見てる。」と言われ悔しかった。学校の行事で、1km程度の道のりでも「遠い道のり」と言われショック。	
教育	近所の私立幼稚園に入園を考え、問い合わせたところ、「そのようなお子さんは…」と話を聞いてもらえなかったり、話は聞いて下さるものの、子の病歴等を話すと「他を当たっては…」と遠回しに断られ、冷たい仕打ちを受け、結局入園できなかった。	障害があっても、受け入れられるよう、幼稚園に体制を取っていただきたいし、園長にも理解を持ってほしい。
教育	車いすを用いている高等学校1年生の親。「校内の移動は親の責任で」という学校の要請で、私は入学式の日から毎日学校で待機している。	普通に学校へ通える支援制度の確立や、設備等の配慮をお願いしたい。
教育	県立高校の普通科に通っていた知的障害児の親。文化祭前日に、担任から「2年おきに文化祭だけがをやる子が出るので欠席させて下さい。」と言われ、楽しみにしていたのに休ませました。同様に、修学旅行に行くのも「目が届かないと困るので来ないでくれ」と言われました。	授業・通学など他の子たちと一緒にしているのに、行事なども同様に参加させ、先生がフォローすべき。
教育	小学校のとき、特殊学級は社会見学に連れて行ってもらえなかった。	小学校は出かけるだけでも楽しいことなのだから、何事も同級生と一緒に行動させてほしい。
教育	地域の幼児教室で、障害程度の軽重で職員にひいきされて辛い思いをした。	職員は児童に平等に接してほしい。
教育	子が特殊学級。小学校の運動会ではほとんどの競技種目が見学で、親として辛い思いをした。	しっかりケアできる先生を入れてほしい。
教育	子の担任が、特殊教育に対する知識があると言いながらも子どもの指導はせず、養護学校に行く羽目になってしまった。	学校側も教師の特殊教育に関する適性を見極めてほしい。
教育	小学校で、一日中通学用の帽子をかぶらされていた。担任は、クラスの子どもたちに「あの黄色い帽子の子を連れてきて」と指示し、物のように扱われ、自分では動かなかった。子どもたちにも腕を掴まれ無理矢理引きずり回されアザができ、教室にも入れなくなった。	一人だけ違う目印(帽子)をつけることは差別に当たると伝え、担任がかかわってほしいと伝えた。
教育	特殊学級の担任の発言等。校外学習等の時、情緒障害の子の親には何も言わないのに、自立歩行不能な私の子には「移動が困難」等を理由に介助を要請される。音楽室での授業のとき、「よだれでじゅうたんが汚れるのでマスクをさせていいか」と言われた。「うちの特殊学級は人数が多いから、他の特殊学級に行け」と言われた。運動会のとき、「この子が団体種目に参加すると負けちゃう」	

	と言われた。歩いているとき、無理に引っ張られ、膝をけがしたことがある。	
教育	小学校普通学級の障害のある次男が、クレヨンを床に落としたが拾えなかった。担任は長男を呼び出して拾わせた。	障害のある生徒が普通学級に入ったときの担任の相談システム・研修、学校全体で受け止める管理職の意識改善が必要。
教育	次男が小・中学校の普通学級に通っていたとき、「養護学校に通った方がよい」と多くの人に言われた。現在、地域の学校に満足して通っている親子としては、とても苦痛なことだった。 高校受験のときも、「普通学校へ行かせるのはよくない。山下清を知っているか。特性を伸ばす教育をしてやるのが親だ。」と嫌がらせの電話を受けた。	
教育	小学校入学前、普通学級に通いたいと意思表示したのに入学通知は来ず、教育委員会に受領しに行ったら、親の「見栄」だと言われた。小学校の教員に、連絡帳に「良いところはない」と書かれた。高校の教員には、話をする前から「知的障害者とは関係がない。つきあえない。」と考えている人が多い。	障害者の生き方・教育は、福祉的就労や特殊教育に限定されず多様であること。この多様性を認めるための研修に当事者・団体を呼んで何回でも回を重ねてほしい。 また、行政も統合教育を進める立場の人からもっと意見を吸い上げる努力が必要。
教育	障害のある娘を兄弟と同じ地域の小学校に就学させようとしたところ、就学相談を強要された。	統合教育を原則とし、多様な選択肢が設けられることを望みます。
教育	幼稚園で、早退を強要された。また、補助の保母がついていたにもかかわらず、「ずっとお母さんがついて下さい」と言われた。	“差別”に気づいてほしい。
教育	自閉症の子が幼稚園を探すにあたって、いろいろな理由をつけて断られ、卒園式でも、多動のため「証書授与だけの参加とさせていたただきたい」と言われた。小学校入学に際しても就学相談を強要された。社会でも、障害のある子が地域の小学校に行くのが当たり前という認識が薄く、他の保護者から「どうして、この学校を選んだのですか？」と聞かれて落ち込んだ。行政の就学時健診でとても嫌な思いをしている。	
教育	50年以上前の高校入試で、合格判定会議で「松葉杖の障害者を合格させるわけにはいかない」と反対の意見があったのを兄の友人の教師から知らせを受け、親子ともども訴えたおかげか、入学することができた。あのとき不合格だったら、今の人生はないと思う。	
教育	幼稚園で、多動といわずらなどの理由で2畳ほどの物置に閉じこめられた。子にはトラウマになった。	

教育	<p>養護学校高等部3年に在籍。子どもと関わる仕事をして生活できる収入を得るため「小学校からの夢」である保育士となるため、進学準備を開始したいと学校に申し入れた。その際、学力等が足りないとされたが、本人の意思もあり受け入れてもらえた。しかし、その後も複数の教師から「余計なことをせずなおにどこか作業所に行けば」とたびたび言われた。障害がなければこんな扱いは受けなかった。</p>	<p>入学試験(高校含む)の特別枠(社会人、帰国子女等)の中に障害者も含める。カリキュラムが普通高校と異なるので同様のテストを受けることは不可能です。</p>
教育	<p>知的障害のある息子が小学生のとき、普通学級の教頭先生と話す機会があり、「お母さん頭がいいんですね。」と言われた。「子に知的障害があると親も遅れていると思われるのかな？」と思いました。</p>	
教育	<p>現在勤務している中学校で、職員の話の中でボーダーの生徒が授業でカッターナイフを使うことになった時、「〇〇に刃物って言いますからね～」と言った職員がいる。学校の職員は養護教諭以外、統合失調症という言葉を知らない。生徒の中には、集中力がなく学力も高くない生徒がいる。そうすると勝手に、ADHDではないかと思いい納得してしまうように感じた。</p>	<p>学校の全教職員を対象に、特に精神障害者への偏見をなくすような研修を必ず実施するようにしてほしい。</p>
教育	<p>特殊学級に入るのに苦労し、入ってからも校長から「養護学校へ行くように」といわれた。</p>	<p>学校は親や子どもの意思で選べるようにしてほしい。</p>
教育	<p>娘が小学校の時、親の承諾もなく一人だけ別室で知能テストを受けさせられた。また、娘がいるとクラスの平均点が下がると言われ、クラスメイトからのいじめもひどかった。</p>	<p>県は教職員を指導し、障害のある人のことを理解し生徒に対する理解をもってもらいたい。</p>
教育	<p>子が小学校普通学級に入学後、障害があることを理由に、校長に「親のエゴでこの学校にいるのは迷惑だから他の学校へ行き、みんなと出来るようになったら戻って来い。」「上級生の祖父母が学校へ来て、『何で障害のある子がこの学校にいるのか』と言いに来た。」などと言われた。</p>	
教育	<p>普通高校の体験入学のとき、障害があることを理由に子の前で、「この学校を選んでもらっては困る」と言われた。障害があると、受験校の選択の自由もないのでしょうか。</p>	
教育	<p>就学の際し、特殊学級を選択していたが、就学時検診の結果等から養護学校への入学を勧められ、教育委員会の人々が自宅にも来た。</p>	<p>養護学校への入学を勧める理由が、知的障害のレベルのみであったようだが、学校生活をどう送るかは、地域との関わり等々、様々な観点から考慮しなければならないと思う。</p>
教育	<p>就学前に言葉の相談室に行ったところ、「お宅のお子さんが小学校に行ったら奇声を上げて学級崩壊になるから養護学校に行った方がいい」と相談員の先生に言われた。</p>	<p>関係機関に抗議し、相談員の意識改善に努める。相談員の「障害がある子はみんなの中ではやっていけない」という感覚には根拠がなく、差別であることを自覚してもらう。</p>

		関係機関が障害者とその保護者が選ぶ進路を尊重する。無責任な指導を慎む。
教育	就学相談で普通学級に行ってもうまくいかなかった例をたくさん聞かされ、養護学校はいいところだと言われた。それでも普通学級に行くと行ったら、「お母さんは子どもがどうしても自分の見栄を通せばいいのですか」と言われ、「障害児が生まれても不幸なことではない」と説教された。ちなみに、母親は子どものことで不幸だと思ったことは一度もない。	就学相談は相談されたことだけを中立的立場で答えること。普通学級でも特殊学級でも養護学校でも、いいことと悪いことが同じようにあることをちゃんと言うこと。
教育	中学校や高校で、「何か起きてからでは遅いので」「安全のため」「職員は他の子どもたちで大変なので」などの理由で、修学旅行など学校外行事に親の付き添いを求められた。	学校に意識改善を求める。何かが起きてからでは遅いのは障害があってもなくても同じであり、何かが起きる確立も障害がある子が大きいことはない事をわかってもらう。事件・事故のうち、障害が原因である場合は障害以外が原因である場合よりもずっと少ない。 どうしても必要な場合は人的加配を考える。ただし、今まで本当にそれが必要だったケースはごくわずかでした。
教育	学校で「授業が分からないのにただ座っているだけでは無駄だ」と言われる。	子どもが何を学んでいるか、いないか、狭い見方をしないように気をつける。
教育	「オール1ではかわいそうだから成績はつけません」と言われる。	障害がない子の成績には1もつけるのだから、そのクラスの中で先生が子どもの存在を評価するよう求める。障害があるからオール1だと決めつけないでほしい。子どもと向き合い、付き合えば必ずプラスに評価できることはあるはず。それでどうしてもオール1ならそれも立派なオール1だと学校に評価してもらおう。
教育	「特殊学級に行ったらその子にあった教育をする」と言われて移ったのに、お遊戯ばかりして全然勉強を個別に教えていない。1年生から6年生まで同じ事をしている。その子にあった教育をしているとは思えない。だまされたと思う。	
教育	学校でものがなくなって「障害のある子が取った」と先生に言われた。その子が違うと言っても、「彼は分かって言っているのかどうか、分からないから信用できない。」と言われた。クラスメイトが証言してくれて初めて疑いが晴れた。逆に自分の財布がなくなって先生に言ったところ、どこかに落としたのだろうと取り合ってもらえなかった。	